

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成 22年 3月 31日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170400832
法人名	有限会社 エヌ・ジェイ・エヌ共生
事業所名	グループホーム 蔵 発寒
所在地	〒063-0822 札幌市西区発寒2条2丁目3番20号 (電話) 011-671-8533

評価機関名	北海道シルバーサービス振興会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目北海道社会福祉総合センター(かでの2・7) 4階		
訪問調査日	平成22年3月23日	評価確定日	平成22年3月31日

## 【情報提供票より】(22年2月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 24 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 16人, 非常勤1人, 常勤換算	16.4人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷金	無	暖房費	8,000円	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	340 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,340 円		

### (4) 利用者の概要(3月23日現在)

利用者人数	17名	男性	1名	女性	16名
要介護1	10	要介護2	2		
要介護3	1	要介護4	3		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 84.3歳	最低	68歳	最高	98歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	静明館診療所・さくら歯科クリニック
---------	-------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体組織の運営理念に加え、事業所独自である地域密着型事業所としての理念をしっかりと日常的に実践し、町内会の老人クラブをはじめすこやか倶楽部や、連合町内会の夏祭りなどに利用者とともに参加して、地域住民と共に楽しみを共有している。運営推進会議を2ヶ月毎に適切に開催しており、地域や包括支援センター、さらに家族の理解と協力を得ている。また、家族会を年3回開催し、家族と良好な関係づくりが出来ている。同業者との交流など外部評価の改善項目に積極的に取り組み、改善シートの記載も丁寧にされ、職員間で共有している。質の高いケアの実践に向けて尽力している事業所である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価で改善課題として挙げられた、①理念の共有と日々の取組み②評価の意義の理解と活用③同業者との交流を通じた向上、以上3項目については、改善シートに記載して職員全員で取り組みが見られる。なお、災害対策については、引き続き更なる取組みに期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員全員で取り組んでおり、各項目について具体的改善策について何度も話し合いを重ね、更なるサービスの質の向上を目指して改善に取り組まれている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月毎に多方面からの出席があつて開催している。検討事項について経過を追って報告し、積み上げてケアの向上に活かしている。地域の理解が深まり、協力が得られるようになってきている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会を組織し、年3回家族の集まりを開催している。気軽に職員と言葉を交わし意見が言えるように配慮がある。また、食事を話し合いやすい雰囲気作りなどの工夫も見られる。更に訪問時の際にも話し合いを自由に行ない、出された意見は他の職員と共有し、話題にして検討している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開設時から、町内会と良好な関係づくりがなされ、利用者の半数以上が町内会行事や老人クラブ、介護予防センターのすこやか倶楽部などに職員の引率で喜んで参加しており、地域の一員として利用者一人ひとりが事業所での暮らしが、これまでの暮らしの延長上であるように支援している。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体組織の運営理念の他に、事業所独自の「介護されるの関係でなく共に地域で暮らす仲間でありたい」を運営理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者及び職員は、毎週月曜日朝のミーティングで理念を唱和し、確認して日々のケアにおいて実践するよう努力している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は開設時から町内会と良好な関係づくりがなされ、利用者の半数以上が町内会行事、老人クラブ、すこやか倶楽部などに職員の引率で喜んで参加して交流している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で各項目について何度も話し合いを重ね、サービスの質の向上を目指して取り組んでいる。外部評価の改善項目については、項目シートを作成して、検討し実践に取り組み、結果についても記録があり、職員で共有している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に多方面からの出席者を招き開催している。検討事項について経過を追って報告し、積み上げてケアの向上に活かしている。地域の理解が深まり、協力が得られるような関係作りができてきている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が開催する事業所管理者会議に出席し、連携を強化している。また、西区の管理者会議にも出席して情報交換をしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「家族通信」を発行し、ユニットごとに作成し、さらに利用者個別に記載するスペースを設けて、暮らしぶりを詳細に知らせている。また、金銭出納や職員の異動についても報告している。『家族連絡ノート』の活用もある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を組織し、年3回家族の集まりを開催して、気軽に意見を言えるような場や、食事を交えて話しやすい工夫もある。問いかけをして、出された意見は主任会議等で話し合い、運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は出来る限り少なくして、馴染みの関係が継続出来る様にしている。交替がある場合は、他の職員が利用者本位に支援している。なお、職員のレベルアップを目指してユニット間の職員交流を実施しているが、模索中である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同一法人では研修計画を立案し、年3回職員の希望によるテーマで合同で学びをしている。外部の研修にも積極的に参加し、報告書で共有し、職員の質の向上をめざしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区内のグループホームと利用者も含めての合同バイキングを実施した。また、職員研修会も開催されて情報交換等相互訪問の活動を通して、職員のレベルアップを図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族が見学や体験を通して、雰囲気に馴染めるように不安を取り除いてから、入所に至るように支援している。納得のうえで利用を開始している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の話には目線を合わせ、じっくりと話を聞くようにしている。職員は利用者とともに行動することで喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な会話の中から、利用者の暮らし方の希望や意向を把握するように心がけ、日々の暮らしが満足できるように本人本位に考慮し充実した暮らしとなるように支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が中心になって、アセスメントをして利用者が暮らしやすい介護計画を、個別に話し合いの時間を充分とって検討している。、関係者の意見も参考にして計画作成担当者が作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の個別の記録に介護計画に添った記載欄を設け、月に2回カンファレンスを行い見直しをしている。3カ月毎に作成しているが、状況の変化には即対応して、現状にあった介護計画を作成している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望、家族の希望によって個別の通院介助や外出など柔軟に支援している。介護予防センター主催のすこやか倶楽部に毎月参加している利用者もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と良好な連携で月に2回往診による受診をしている。その他、他科の受診は家族又は職員が引率して対応し、受診結果など「家族連絡ノート」を活用し、職員が共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始の契約時に、重度化や終末期に向けた方針について話し合い書面の確認をしている。利用者の状態によって関係者と話し合い、個別に対応している。看取りの体験もある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの折に、個人情報保護法の理解や秘密保持の徹底など職員の意識向上を図っている。話しかけや言葉使いに配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員がプランを立てて行事などを決めるが、個々のペースを大切に、強制ではなく本人本位に希望にそって支援している。入浴はいつでも可能な体制にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けなど出来る利用者とともにに行い、食事が楽しみとなるように雰囲気づくりに努力している。実際にはこやかに残量なく美味しく職員とともに食卓を囲んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日を固定せずに利用者の希望に添って実施できる体制にしている。概ね週2回を目途に声かけなど支援している。仲の良い利用者同士と一緒に楽しんでいる場合もある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者個別に出来ることを把握して得意分野で力を発揮していただけるように仕向けて支援している。習字、家事・庭仕事、など生き生きとしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や本人の気分によるが希望に応じて散歩やドライブなど閉じこもりを少なくして、気分転換をはかっている。屋外行事を多く実施して、記録の整理も出来ている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはチャイムが鳴る仕組みになっている。日中は鍵を掛けておらず、夜間のみ防犯上施錠している。外出の際は職員とともに出かけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年1回、町内会長や家族、地域住民の協力を得た訓練を実施している。しかしながら、夜間想定訓練はまだ行っていない。	○	今後も更に地域住民等との協力体制を強化し、家族や地域住民の安心に繋がるよう夜間を想定した訓練の実施に向けて近々にも取り組まれることを願いたい。引き続き徹底した災害対策が望まれる。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は職員が作成し、年1回同一法人からの栄養士の点検とアドバイスをいただき、バランスの良い、利用者の嗜好を考慮した食事を提供している。水分や食事の量は毎日記録をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁や廊下の壁面に季節を表現した利用者の製作品を飾り、時計やカレンダーなど見やすい位置にある。台所から、利用者の動きが把握できるように対面の造りで、手伝いなども気軽に出来る。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者それぞれの居室は、入り口に分かりやすい名札をつけて写真を添えている。室内はベッド、タンス、テレビ、家族の写真などを配置して居心地良く過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。